



優先権主張

国名 アメリカ合衆国
出願日 1974年2月4日
出願番号 第439088号

⑨ 日本国特許庁

公開特許公報

昭和50年2月7日

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 発明の名称

おむつの留具

2. 発明者

住所 アメリカ合衆国イリノイ州クリスタル・レイク、
ノーザンブドン・ドライブ 813番

氏名 ハムゼー・カラミ

3. 特許出願人

住所 アメリカ合衆国ニューヨーク州10022、
ニューヨーク市パーク・アベニュー 308番

名称 コルゲート・パーモリブ・カンパニー

代表者 シドニー・エス・コガン

国籍 アメリカ合衆国

4. 代理人

住所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
新大手町ビル206号室

電話 東京(270)6641番

氏名 (2770) 弁理士 湯浅 恭三
(外2名)

50 014803

方式 表査 (2)

⑪特開昭 50-109041

⑬公開日 昭50.(1975) 8.27

⑭特願昭 50-14803

⑮出願日 昭50.(1975) 2. 4

審査請求 未請求 (全4頁)

庁内整理番号

7030 35
6346 35

⑯日本分類

121 N5
121 A3

⑰Int. Cl²

A41B 13/02
A44B 21/00

明 細 書

1. [発明の名称]

おむつの留具

2. [特許請求の範囲]

吸収性の本体とプラスチックの裏布とを有する使い棄ておむつに用いる為の留具に於て、隣接する第1、第2及び第3の脚を有するZ字形に折りたたまれたテープ片を含み、該テープ片は表の面と裏の面とを有し第1及び第3の脚の各々の表の面に接着剤が塗布され、上記第2の脚の表の面は接着剤が塗布されて居らず、上記第1脚の裏の面は上記プラスチック裏布と接触し、上記第3脚は表の面が上記第2脚の表の面と接触しそれにより上記第2及び第3の脚から成るサブユニットを形成し、該サブユニットは上記第1脚の裏面に剥離

可能に固着している、おむつの留具。

3. [発明の詳細な説明]

本発明は使い棄ておむつに用いるのに適したようなおむつ留具に関する。

粘着テープユニットを有するおむつ留具は近年非常に普及し多数の留具の構造が提案されて来た。その様な提案された構造の一例は、第1、第2及び第3の部分から成り該第1の部分はおむつの普通のプラスチック裏布に接着されるものである。第2の即ち中央の部分はその部分で接着剤が露出されず、故第2部分の接着剤の上に重なり第2部分に接着され剥離処理を行つた露出された表面を提供する第2の着片を用いる構造のものである。第3部分は上記の露出表面に剥離可能に固着される。此の様な構成で上記の露出表面は「剥離シ-

ト」として作用し第3部分の接着剤が他の表面と誤つて接触しないよう保護する。此の構成は、帯片が第3部分剝離後もその位置に留るから別個に剝離シートを用いる必要がない。此の構成の提案された用途はU形折りたゝみおむつについてであり、該おむつではおむつの側縁を内側に折りそれにより端面がU形をなす。この様なおむつでは留具が露出され第1部分以外の留具部分は弛い。

本発明の第1の目的は上述の一般的型式の留具及び外桶及び作用が改良されたおむつ用留具の組合わせの留具を提供するにある。

この様な目的を達成するには、本発明により構成した留具はテープ片を第1、第2及び第3の屈折する脚を有するZ字形に折りたゝみテープ片は表裏の両面を有する。第1及び第3の脚は表の面

(3)

タブがボックスブリーツ・フラップの側縁から突出しているだけで視界からかくされる。)サブユニットを第1脚に2つの方法の何れかで剝離可能に固着するのが好ましい。即ち、第2の脚に開口を設け該開口を第3脚の接着剤が第1脚の表の面と接触する如く露出する。代替的には、高温熔融接着剤のスポットをおむつ及び/又は留具製造中に、第1及び第2脚の裏面の間に塗附すれば、所望の結果を迅速に得ることが出来るが小さ過ぎ接着部は容易に剝離され所望時にサブユニットを剝離する。

以下に図面を参照しつつ本発明の実施例を説明する。

図面を参照すると、おむつ10は折りたゝんでボックスブリーツの形態になされ、下面14及び

(5)

特開昭50-109041(2)
に接着剤が塗布されているが、第2の脚の表の面及び3つの脚全部の裏面には接着剤が塗布されていない。第1脚の表の面は留具をおむつに固定する為におむつのプラスチック裏布と接触して居り、第3及び第2脚の表の面は互に接触して居り、それにより第2及び第3脚を含む2層の留具サブユニットを形成する。このサブユニットはそれ自体第1脚の裏面に剝離可能に固着され、それによつて留具全体がおむつの側縁附近のコンパクトなかつこのよいユニットに取り外し可能に維持される。(又、上記フアスナーをボックスブリーツおむつと組合わせた本発明に依る組合わせに於ては留具はボックスブリーツ・フラップの下面に固着され留具の第3の脚から把みタブが突出している。この様にして嵩の高い留具自体は、単に把み

(4)

側縁18を備えるフラップ12を有する。第2図乃至第5図の断面図で最もよくわかるように、フラップ12の下面14はプラスチック裏布20で出来ている。普通の吸収体ボデー22をプラスチック裏布20と内側の水滲透性の表布24との間に挟んでいる。

留具26は消費者に破る時のZ字形(第1図、第2図及び第5図)に折りたゝまれたテープ片28を有する。Z字を形成する3つの脚30、32、34は実質的に同一の長さを有し、把みタブ36が第3脚34から突出している。テープ片28の表の面(即ち第4図に見るような上面)には第1及び第3の脚30、34に対応する区域に接着剤38が塗布されている。脚32の表の面及びテープ28の裏面全部は接着剤が塗布されてい

(6)

ない。

第2図を見ると、留具26の折りた^ひまれたZ字形に於て、脚32及び34の裏の面が接触している。接着剤を有しない脚32の裏の面は当技術分野で周知の通り剝離剤で処理し、脚34の接着剤38が脚32の裏の面に接触する接着強度を減じた剝離可能な接着部を提供することも出来る。脚34の接着剤38は脚32の裏の面に接触している。脚30の接着剤38はプラスチック裏布20の面14と接触し留具26を面14にしつかり固着している。脚32、34は留具のサブユニットと見ることが出来る。このサブユニットはそれ自体脚30の裏面に剝離可能に固着され留具をコンパクトであるが使用前に容易に展開し得る形状に保つ。これは第2図では第2脚32の中央に

(7)

されているように、この結果、サブユニットを第1脚30に粘着する剝離可能な接着部を剝離し、同時に、第3脚34を第2脚32から剝離する。この過程により、第4図に示す通り留具26が完全に展開する。完全に展開すると留具26はおむつを幼児に固定する為におむつの反対側の部分に接触させ得る接着剤を塗布した脚34を提供する。非接着性の脚32は、萬一おむつの寸法が正しくなく幼児の動きによりねじれたり引張られた時、幼児の皮膚に最も接触し易い部分に配設されている。したがって接着剤38が幼児の皮膚に接触する可能性は少い。

4.〔図面の簡単な説明〕

第1図は本発明に依り構成したおむつ及びおむつ留具の斜視図。

(9)

特開昭50-109041(3)

開口40を設けることによつて達成出来る。此の開口は第3脚34の裏の面の接着剤の小さな面積を露出して第1脚30の裏面と接触し得るようにし、それによりサブユニットを第1脚30に粘着させる。(第5図の代替的实施例では同じ特徴が、留具又はおむつの製造時に脚30、32の裏面の間に配した高温熔融接着剤のスポット42により得られる)。

第1図、第2図及び第5図に最もよく見られるように、留具26は消費者におむつが渡つた時小さな突出した把みタブ36のみが見えるように構成され且ボックスブリーツおむつの中に配設されている。このタブはおむつをあてがう人が把みフラップ12の側縁18から直角に引き出すのに便利な位置に設けられている。第3図に最もよく示

(8)

第2図は第1図の2-2視断面図。

第3図は第2図と同様の図であるが留具を少し展開した状態を示す。

第4図は第2図と同様の図であり、留具を完全に展開しおむつを幼児に固定する為の位置にした状態を示す。

第5図は第2図と同様の図であり、留具の代替的实施例を示す。

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 10--おむつ | 20--プラスチック裏布 |
| 22--吸収材本体 | 26--留具 |
| 28--テープ片 | 30, 32, 34--
第1, 第2, 第3脚 |
| 38--接着剤 | |

特許出願人 コルゲート・パームリブ・カンパニー

代理人 弁理士 湯 浅 恭 三

FIG. 1

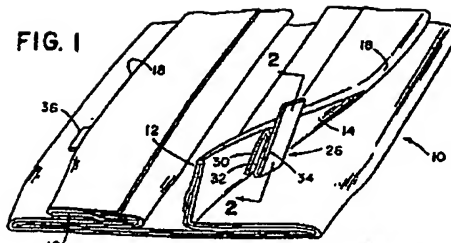


FIG. 2

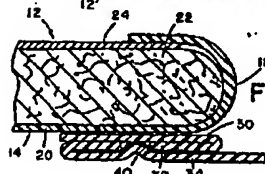


FIG. 5

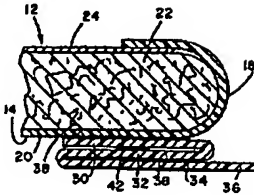


FIG. 3

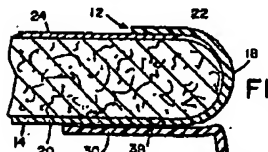
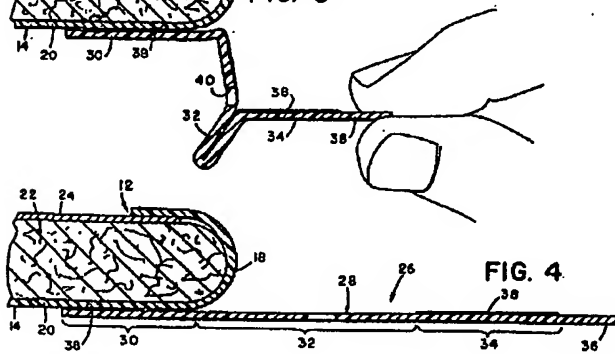


FIG. 4



5. 添付書類の目録

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 委任状及訳文 | 各一通 |
| (2) 優先権証明書及訳文 | 各一通 |
| (3) 明細書 | 一通 |
| (4) 図面 | 一通 |

6. 前記以外の代理人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
新大手町ビル 206号室

氏 名 (6355) 弁理士 池 永 光 弥

住 所 同 所

氏 名 (7112) 弁理士 今 井 庄 亮